

## 第10回日経小説大賞が決定

第10回日経小説大賞（日本経済新聞社・日本経済新聞出版社共催）の受賞作が、佐伯琴子氏（42）の「狂歌」に決まりました。不思議な運命で結ばれた男女の関係を描いた現代小説で、人間の欲望をストレートに描いている点や強烈な身体感覚を感じさせる点が評価されました。授賞式は2019年2月20日、東京都千代田区の日経ホールにて、一般公開で行います。授賞式に引き続き受賞者と選考委員3氏による座談会を予定しています。

なお受賞作は19年2月に日本経済新聞出版社から単行本として出版します。

### 「日経小説大賞」

#### 1. 選考委員 辻原登、高樹のぶ子、伊集院静の3氏

※辻原氏の辻は二点しんによる

#### 2. 賞金 500万円

#### 3. 第10回受賞者 佐伯琴子（さえき・ことこ）氏

1976年大分県日田市生まれ。一橋大学卒業後、旅行会社に勤務。

2008年、夫の転職を機に九州へ戻り、タウン誌の広告営業と制作に携わった後、フリーのライターとして活動。現在は福岡市在住。

#### 4. 受賞作の内容

2013年、母親を殺されたきり葉は、きっかけを作った料亭の経営者、龍之介への復讐を誓う。龍之介の息子、龍臣も父親を恨んでいる。龍臣に惹かれたきり葉のもとへ恋歌の切手が貼られた手紙が届く。5年後、きり葉は龍臣が出資した仮想通貨取引所の社長となるが、財産流出事件が起きる。龍臣が姿を消し、きり葉はその行方を追う。

#### 5. 応募状況 18年4月から6月にかけて募集、応募作品数は232点

### 《参考》

第1回（2006年10月） 武谷 牧子氏 「テムズのあぶく」

第2回（2008年10月） 萩 耿介氏 「松林図屏風」

第3回（2011年10月） 梶村 啓二氏 「野いばら」

第4回（2012年12月） 長野 慶太氏 「神様と取り引き」（出版時は「神隠し」）

第5回（2013年12月） 芦崎 笙氏 「スコールの夜」

第6回（2014年12月） 紺野 仲右エ門氏 「女たちの審判」

第7回（2015年12月） 西山 ガラシャ氏 「公方様のお通り抜け」

第8回（2016年12月） 太田 俊明氏 「姥捨て山繁盛記」

第9回（2017年12月） 赤神 諒氏 「愛と義と」（出版時は「大友二階崩れ」）

※年月は発表時点

---

### 日本経済新聞社について

日本経済新聞社は1876年以来、140年にわたってビジネスパーソンに価値ある情報を伝えてきました。約1500人の記者が日々、ニュースを取材・執筆しています。主力媒体である「日本経済新聞」の発行部数は現在約242万部、2010年3月に創刊した「日本経済新聞 電子版」の有料会員数は約60万人で、有料・無料登録を合わせた会員数は400万人を上回っています。

### 本件に対する問い合わせ

日本経済新聞社 広報室 TEL:(03)3270-0251 (代表)